地域の防災力の向上に向けて！

はとがやまちなみ防災フェアー２０１１
報告書

「大震災で生き残る知恵を学ぼう！」

第１３回「鳩ヶ谷市無料住宅相談会」

平成２３年６月４日（土）

（社）埼玉県建築士事務所協会川口支部
支　部　長　　竹ノ谷　敦夫
まちづくり委員長　髙杉　雄一
まちづくり推進室長　佐藤　啓智

＜ 相 談 会 報 告＞

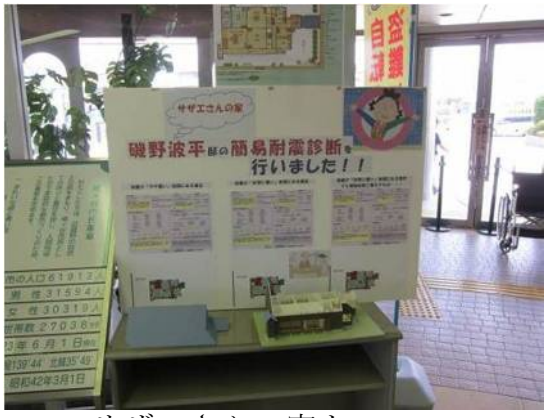
今年の第１３回「**鳩ヶ谷市無料住宅相談会**」は、鳩ケ谷市が川口市との合併前の最後の防災イベント「**はとがや防災まちなみフェアー２０１１**」の一環として、平成２３年６月４日（土）に鳩ケ谷市役所１階エントランスロビーで開催されました。

早朝から図面を持参し、相談に訪れる方がおりました。この度の東日本大震災に遭遇し、ご自宅の浴室のタイルが壊れ、壁紙クロスが切れたので心配になって耐震相談に来られたとの事です。図面による簡易診断を実施させて頂きましたがあくまでも机上の計算であり、現場を確認しておりません、一度専門家（建築士）による詳しい耐震診断をしたほうが良いとご説明致します。不安になられている住民の方に、適切な診断をおこない耐震改修をおこなえば安全安心なお住まいになることをご説明させて頂きました。

梅雨時期であり天候を心配致しましたが、よい天候にも恵まれ、幸先良い感じが致します。

相談に訪れる方は熱心に、地震の怖さについて、そしてどんな備えをしたら良いかとのと質問をされます。受け答えする私たちも真意にわかり易く丁寧な言葉で話す事を心がけた事により大変感謝されました。

＜ 展示物状況＞



サザエさんの家を

建物の耐震診断についてご説明するために、磯野家(サザエさんの家)を簡易耐震診断させて頂いたパネルも展示致しました。

相談会場では、地震の怖さと現状を知って頂く写真やパネル、耐震模型等も飾らして頂き、住民の方々にわかり易く説明出来るように心がけました。

被災地の様子を撮影した写真を説明

模型の説明を熱心に。。。。

液状化の模型

筋交い等の重要性・家具転倒模型

耐震補強工法模型

地震に強い樹脂配管(ｴﾙﾒｯｸｽ)

＜まちあるき検証・ワークショップ＞

昨年に続き、市民の方々とまち歩き検証を行いました。歩いた地域は、市役所周辺地域で災害が起きたらどうなるのと想像しながら歩きます。
コースは４コースに分かれてまちあるきを致しました。

市民の皆さん自身で鳩ヶ谷市のまちを歩き、広場など避難場所はどこにあるのか、災害が起った時に避難場所に行きやすい道はどこか、消火栓の位置などを実際に見て回りました。

まち歩きをしながら想像力を働かせて、色々と気付いた箇所を記録しながら散策致します。

普段自分が住むところと違う街並みを歩いてもらいました。
どこが違って、どこが一緒なのでしょうか？
まちなみが安全で住み易くするアイデアは？

「道が狭く車と人がすれ違えない」
「高低差がある部分の冠水が心配」
「ブロック塀の鉄筋がむき出しになっており地震時に転倒しないか」
「道幅が狭い上にはみ出して駐車している」
「古い建物が多いので火災が心配」
「消火器が多く設置されている」
「いま地震おきたらどうしたらよいの」

道路の道幅の確認等・・・・

まち歩き終了後には、ワークショップ型式で各グループに分かれて、各々防災マップを作成致しました。

C 本町・坂下町地域　　D 市役所周辺～坂下地域

A．三ツ和・八幡木　　B、桜町地域

早朝から、参加者の方々の為に、炊き出し訓練と証し豚汁及びアルファー米の準備をしてくれた皆様に感謝！大変おいしかったです！

プライベートルーム製作

住宅用災報知器の展示

消防署署員方の協力により、地震の揺れが体感できる起震車を設置頂きました。
市役所に来庁頂いた方には大変人気の体感スペースです！！

目をつぶって起震車に乗車すると、地震の揺れの体感がさらに際立ちます。
『こんなに揺れたら、揺れがおさまるまで何も出来ないね、動けないね!!』と地震に備えて何か備えておく必要があることに気付いてくれた方が多かったようです。
さて、いよいよ皆様気付きの発表であります、皆さんどのような気付きがうまれたでしょうか？お昼休みもままならず、皆様、意見のまとめに大変苦労したみたいですが如何でしょうか？

午後の開催に先立ち、今般、防災のイベント『はとがやまちなみ防災フェア 2011』の開催につきまして主催者代表として、鳩ケ谷市都市建設部　丸岡武史部長よりご挨拶がありました。
さて、各ﾌﾞﾙｰﾌﾟ別に本日の気付き発表に移ります。
発表後は、講師の先生方から講評を頂いたのちに「東日本大震災に学ぶ、日ごろの防災対策」と題し講演を頂きます。

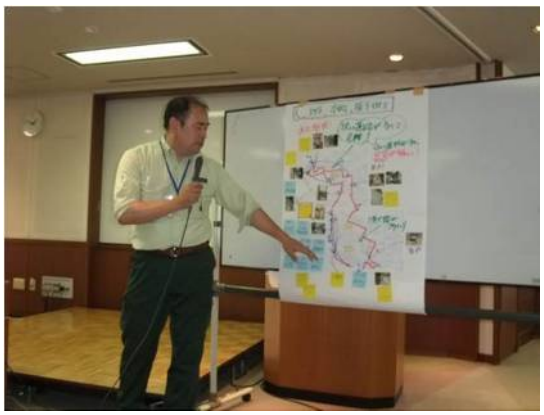
＜WS 発表・講評・講演会＞

A．三ツ和・八幡木

B、桜町地域

C．本町・坂下町地域

D 市役所周辺～坂下地域



皆さん、思い思いにまとめた気付きを発表致します。

炊き出しグループと避難所設営グループの代表の方々にも本日の感想と気付き発表頂きます。

炊き出し班の感想

避難所設営感想　（仮設トイレについて）

※味しい炊き出し、準備が大切！

※駐車場ﾏﾝﾎｰﾙ仮設ﾄｲﾚの周知活動を

皆様の気付き発表を聞いて、本日の講師である栗田先生に講評を頂きます。

NPO 法人ﾚｽｷｭｰｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞ
代表理事 栗田 暢之 様

『本日は、普段自分が住むところではない場所の防災ﾏｯﾌﾟを作成しましたが、与えられた防災ﾏｯﾌﾟでなく、自分たちの街は、自分たちの力で防災マップを作成し、各戸に保管してください。災害時役所に頼っても何にもしてくれません。役人も被災者になってしまうのです。何日かして落ちつくまでせめて、3 日は自分で生き残らなければなりません。この経験を生かして本当に役立つ防災マップを作成して下さい。日ごろの防災対策も本当に役立つ防災訓練をおこなう必要が有ります。地域の防災力を上げて個人で出来る事から始めていきましょう！』

「東日本大震災に学ぶ、日ごろの防災対策」と題し講演をいただきます。
講師の福和伸夫教授におかれましては、今回も鳩ケ谷市の防災イベントにご協力を頂きました。大震災の歴史と地理の関係、そして地名と地震の関係、危険な場所には住まない事が重要であるが、もし住んでしまったなら敵[地震]を知りその対策を早急にたて自分の命、次世代の子供たちの為にも今自分にできることをしていきましょうとのお話しを頂きました。

名古屋大学大学院環境学研究科教授
福和　伸夫　様

講演の最後に、『敵[大地震]は必ず来ることはわかっているのですから、皆さん私と約束致しましょう！本日ご自宅に帰ったら、家具転倒防止でもなんでも良いです。自分の命・孫の命を守る為に何か自分の出来る事を必ずやるという方挙手願います。手を上げない方は非国民ですよ！』

ハーイと全員手を上げ約束致しました。。。。！(*^。^*)！

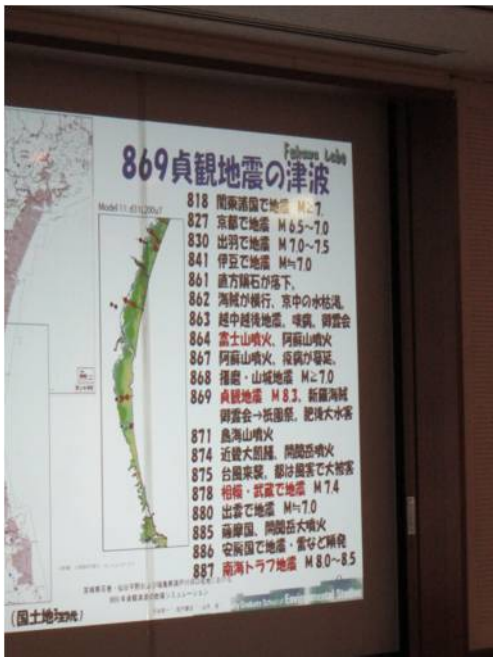
栗田先生に再登場頂き、東日本大震災のその後の様子、現状の問題点とこれから何をしていくべきかということについてのお話しや、被災地で足湯のサービスを行う過程で被災者の方々から聞き取りしたお話しを何点か聞かせて頂きましたが、あまりにも悲惨で悲しく涙を誘うお話でありました。

最後に、大災害に遭遇し、生き残っていくにはとの問いにたいして・・・・・

『生き残った人と不幸にもなくなった方々との違いはなんであったか？。。。大震災の経験を生かし、生き残らなければならない、日本は災害大国であることを忘れてはいけない。想定外。。。自然の力は人間の想定外の力があることを忘れてはならない、その中で生き残っていくには、隣近所の付き合いが大切である。自分が死なないこと！普段からイメージすること出来る事から備えることが大切である。』

NPO 法人ﾚｽｷｭｰｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞ
代表理事　栗田 暢之

（１００年周期地震）



１０００年周期地震

福和教授のお話の通り、私たちは１０００年に一度の周期地震、１００周期地震の狭間に入っていることは確かなようです。このような状況の中で私たち建築士として、今後共防災力の向上と建物の耐震化のお手伝いをしていけたらと思います。

今回準備不足により実施に際し心配なところも多々ありましたが、皆様のお蔭で大盛況のうちに閉幕致しました。

鳩ケ谷市が川口市と合併してもこの防災イベントが来年度も続けられることができれば、この度もうまれた小さな気付きがさらに大きな気付きを産み、個々のそして地域の大きな防災力向上の手助けになるのではないかと感じております。

（社）埼玉県建築士事務所協会川口支部といたしましても、建築士の活動を住民の皆様に強くアピールできた『はとがやまちなみ防災フェアー２０１１』でありました。

（（社）埼玉県建築士事務所協会川口支部
まちづくり委員長　高杉　雄一